

3

岐阜県郡上市

郡上市立はちまん幼稚園

■クラス数／3クラス
■幼児数／80名
■建築主／郡上市
■所在地／郡上市八幡町小野 8-5-1

■敷地面積／3,704.96㎡
■建築面積／1,171.16㎡
■延床面積／958.44㎡
■構造・規模／鉄骨造 地上1階建
■施工期間／2005年6月～2006年4月
※クラス、幼児の数値は平成22年3月末現在

教育方針

- 元気に遊ぶ子どもを育てる
- 生活習慣を身につける
- 感性豊かな子

自分で感じて、気づいて行動に年齢を超えた交流のなかで、楽しく遊びながら生活習慣を身につけ、集団生活に慣れることを目指しています。

年齢を超えた交流と多様な経験が子どもを成長へと導く。

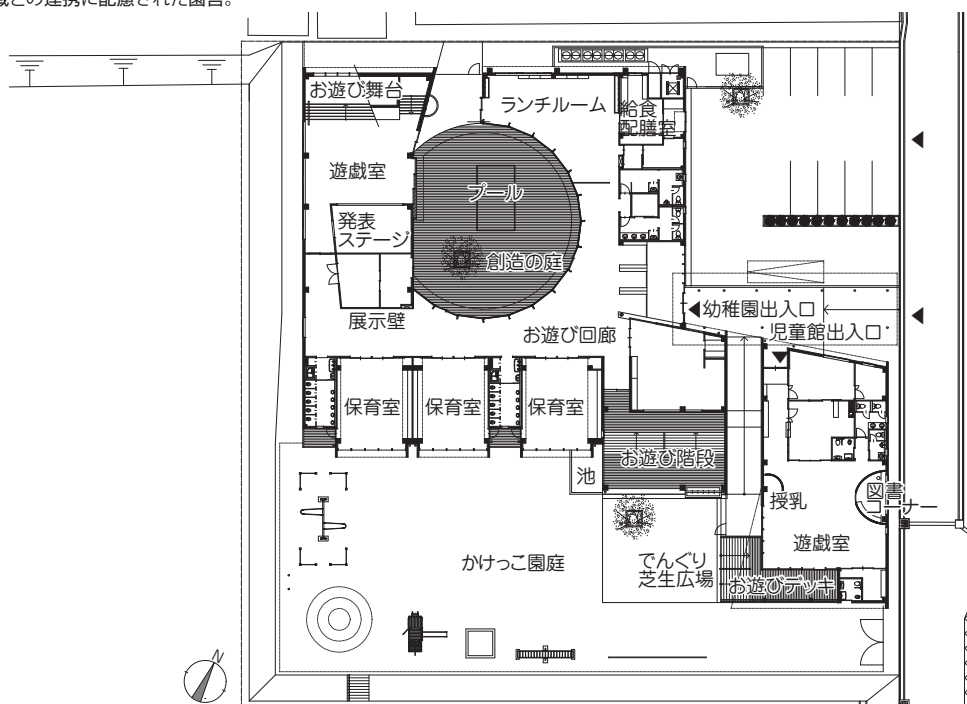
自然との共生と地域との連携を重視した施設。野菜づくりから食事までが行える環境。様々な活動が展開できる遊戯室。



床・壁の木材、回廊と中庭など、子どもの遊びと地域との連携に配慮された園舎。

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な生活体験が可能となる環境の整備
2. 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続への対応
3. 家庭や地域と連携した施設整備の充実



■配置図兼1階平面図

多様な生活体験が可能となる環境の整備 └ ランチルームの設置と多角的な運用



1 ランチルームでは、食事の時、順番を待って席に着く



2 ランチルームに隣接する給食配膳室



3 ランチルームでは畑で穫れた野菜を幼児が調理を行うことも



4 園内の畑での収穫

園長の視点から

木のぬくもりのある ランチルーム

食事の時間は生活習慣を学ぶための大切な時間です。地元県内産の自然木の木材を使ったランチルームは、やさしい木のぬくもりのある環境としています。集団での行動は、おもいやりの心や規則を学ぶ経験となります。

ランチルームでは保護者主催による食事会も開催され、保護者同士の交流の場としても使われます。(写真1)

調理を体験できる環境

ランチルームでは、幼児が好きな形に野菜をカットし、水にひたすなど道具の使い方や野菜のあつかい方を遊びながら楽しく学ぶことができます。できあがったらランチルームで食事をし、じぶんたちの作品を堪能します。また、食べ物をつくる喜びと大変さを観察できるように、ランチルームの横には給食配膳室を配置しています。

(写真2、3)

野菜づくりで、収穫祭

土遊びは楽しく子どもたちは大好きですが、野菜づくりとなると大変です。野菜園での畑しごとは、郡上高校の食品流通科栽培班が来園し、子どもたちのお手伝いをしてくれます。子どもたちにも収穫しやすく、喜びが伝わるように工夫をしています。(写真4)

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続への対応 「お遊び回廊と一体となった保育室での交流」



5 お遊び回廊と一体となった保育室で、園を訪れた近隣の小学生と遊ぶ幼児



6 「お遊び回廊」からは保育室内部での活動がうかがえる



7 保育室の大きな窓からは園庭の景色が見える

学び・遊び・交流する 小学生との多彩な体験

小学生との多彩な交流を通して、子どもたちは時に緊張し、また新たな発見をするなど多くのことを学びます。保育室は、大きな引き戸を開放することで「お遊び回廊」と一体的に利用できるので、小学生等との交流のためのスペースを確保できます。このスペースで小学生等の発表を見ることで、自分たちの発表会への意欲も高まり、演技や作品づくりを一生懸命に行います。遊戯室では感性豊かな小学生の面白いアイデアが子どもたちの創造力を大きくふくらませます。(写真5～7)

遊戯室のステージは発表経験の ファーストステップ

遊戯室には「お遊び舞台」と「発表ステージ」が設けられています。「お遊び舞台」は遊びや行事の時の観覧席として使用します。「発表ステージ」には照明器具、音響機器、舞台幕等が設置され、本格的な仕様となっています。このように2つの場を設けることで、幼児たちの活動が広がり、多様な経験をするのに役立っています。(写真8～11)

〈設計者の視点から〉

- ◎ぬくもりのある木を使い大きなガラス窓で採光に配慮し、自然環境に近づける配慮を施しています。大きなガラス窓を開けると園舎と中庭が一体的な遊び場に変化するよう段差を無くしています。(写真6、7)
- ◎保護者主催の食事が開催されることや、野菜園がある点に着目し、調理施設を整備しました。また、ランチルームを設けることで、栽培、調理、食事という体験型学習

家庭や地域と連携した施設整備の充実 「舞台客席は親子にとって特別な時を演出



8 多様な体験が可能な遊戯室。「お遊び舞台」の階段を観覧席として使用



9 遊戯室「お遊び舞台」



10 先生と一緒にみんなで体を動かす



11 「発表ステージ」は発表会の舞台となり、みんなでそれを楽しむ

検討委員会委員の視点から

多様な生活体験が可能となる 環境の整備の観点から

保育室とは別に食事のための空間が計画されたり、園庭の菜園で幼児等が栽培したものを調理して食べることができたりすることで、食に関する豊かな体験を可能にしている。

幼稚園教育と小学校教育の 円滑な接続への対応 の観点から

保育室がお遊び回廊と連続して計画されており、近隣の小学生等が訪れた際にも、部屋の仕切りを開放し、一体的な広い空間として利用を行うことができるなど、弾力的で多目的な活動を展開することができる。

が可能な環境となっています。
(写真1～4)

◎練習用ステージ（お遊び舞台）と本番用のステージ（発表ステージ）を別々に配置し、場の転換を可能にしています。幼児が見られることの重要性を感じながら、練習という集団行動の大切さや役割の変化、価値観の醸成など多くの体験ができる空間配置となっています。（写真8～11）